



李庚作「黄河渡口」▶
(68.5×46.5cm)

古代文字占いが好評 「貴りえ破談」の中

発表が電撃的なら、解消の記者会見も衝撃的だったのが「貴・りえ」の婚約問題。あの朝日新聞でさえ、二人の婚約を一面で取り扱ったほど。単なる芸能ネタではないという証明でもある。

ところが、婚約発表があった翌日、名古屋のある占い師集団は、某週刊誌の取材にこたえて「二人の関係は白紙に戻る」と宣した。

この集団は昨年、西武優勝をズバリ的中させている若手女性の占い師で構成される「魔女クラブ」。

彼女たちは古代文字（ルーン文字）を使用した「古代ルーン文字占い」で貴・りえを占い、白紙と解答した。

昨年十一月十一日発売の「BIG・DAYS」には、こう記されている。

「相性は悪いですね。結婚にはつながりません。『白紙

に戻る』ということですよ。この結婚には、何かの力が働いて、おそらく来年には、ほとぼりが冷める…」

ところで、この古代ルーン文字占いは、たとえば名古屋市内ならば栄の丸善でも、解説書付きで市販されており、誰にでも手に入る。だから、誰でも占うことはできるのだが、タロット占いと同じで、占いには「力」が要る。

加えて、解説書が極めてわかりづらいということもあって、現在、魔女クラブでは、自分たちの古代ルーン文字占いの入門書を執筆中だとか。

ルーン文字は、一説によると新約聖書よりも古い時代からヨーロッパに存在していた古代アルファベット文字とされる。

このルーン文字を木片や金属の表面に彫つたり、皮に刻んだり、小石の片面に描いたものを袋にいれ、握って地面にまき散らして、メッセージを読みとるといったのが、古代の占いの方法だったとか。

占い方法もまた開発中だという。乞う御期待!!

名古屋で「李庚 水墨画展」開催中

公定歩合の引き下げ等、景気回復にむかって動きだしたが、まだまだと嘆いている美術業界の中にあつて「地道な企画で」——とハッスルしているのが、ぎやらりー五彩（中区錦二丁目）。

今回は、二月二十七日まで、余白が輝く——「李庚（りこう）水墨画展」を開催している。

毎回、趣向をかえて、手軽な名画をうたい文句につぎつぎとユニークな企画を展開しているが、東京三越日本橋本店をはじめ、高島屋大阪店で個展を開いてきた「李庚水墨画展」の名古屋版といったところ。一九五〇年生まれ。父は現代水墨画巨匠の李可染、母は彫刻家鄭佩珠、斉白石が名付け親。一九八一年上村淳之氏に師事し、一九八五年京都市芸大学入学というこの道の大作家。（電二〇三・九七四四番）



素敵な出合いは…

あなたと麗から

くらぶ 麗

〒460 名古屋市中区錦三丁目17-1
第5錦ビル5F ☎(052)951-0018(代)